

「空想の森」道内で初上映

田代監督 来函

新得町で酪農や野菜作りを営む人々の日常を描いたドキュメンタリー映画「空想の森」の道内初の上映会が27日、函館市民会館で開かれた。3回の上映後に行われた田代陽子監督によるトークセッションでは、映画撮影の秘話も披露され、訪れた市民らを楽しませた。

新得ロケ7年 入植家族の姿描く

「空想の森」は約7年にわたるロケを経て、2008年に完成した田代監督の初監督作品。本州から新得町に入植した2家族を中心に、素朴だが力強く生きる人々の姿を丁寧に描き、全国各地のミニシアターなどで上映され、話題を呼んでいる。

田代監督は1996年に開催された映画祭に参加するため同町を訪れた。「食べた野菜がとんでもなくおいしくて、こんな風に作られているのか」と感激し、撮影を思い立った。

最初は、「誰がこんな映画を見るのか」「こんなあばら家を撮るな」と撮影対象の人々の理解を得られなかったが、一緒に農作業の仕事に取り組みうちに少しずつ協力を得られるようになったという。

撮影したフィルムとビデオは約100時間分にもなる。自分で9時間まで編集した後は、新得町の出演者にも見せるなどして、129分の作品に仕上げた。

田代監督は「道内で上映する機会が今まで少なかった。見たいという方がいればどこへでも行きたい」と話している。



トークセッションで「空想の森」

への思いを語る田代監督（右）